

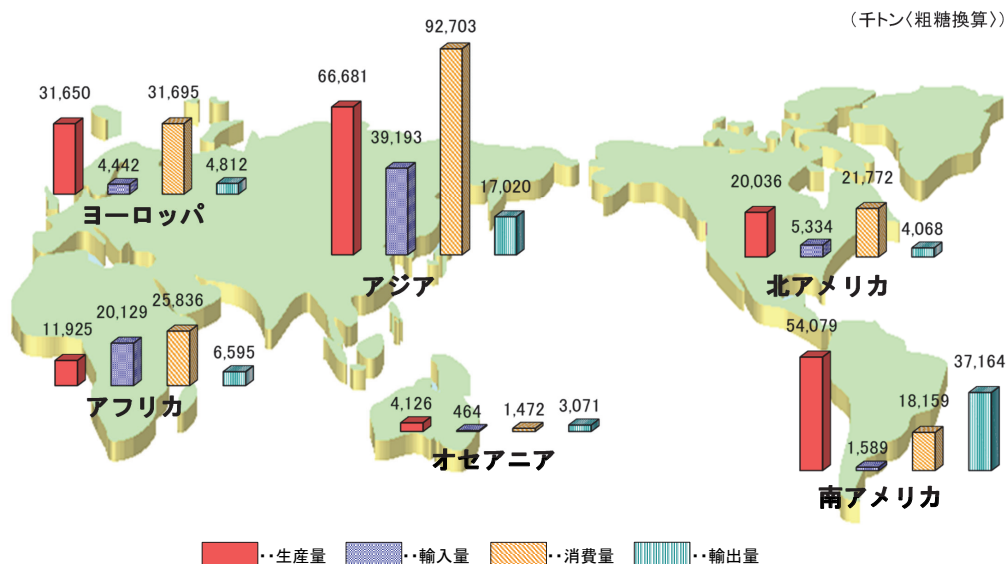


砂糖の国際需給

調査情報部 福寿 悠星、峯岸 啓之

1 世界の砂糖需給（2025年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2024/25年度予測値）



資料：英国の民間調査会社GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, June 2025」

注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1994/95	47,825	116,772	31,638	112,814	32,488	50,933	45.1
1999/00	67,546	133,241	36,640	127,777	39,764	69,886	54.7
2004/05	70,855	144,284	47,195	146,617	50,919	64,798	44.2
2009/10	64,176	159,904	55,867	164,385	55,976	59,585	36.2
2014/15	75,862	183,662	60,943	176,956	62,497	81,014	45.8
2019/20	90,184	181,821	69,494	182,907	71,628	86,965	47.5
2020/21	86,965	181,965	66,802	185,498	67,991	82,243	44.3
2021/22	82,243	186,385	69,295	188,750	71,093	78,080	41.4
2022/23	78,080	190,658	70,639	190,938	71,019	77,419	40.5
2023/24	77,419	195,919	76,218	191,473	76,815	81,269	42.4
2024/25 (2025年6月予測)	81,269	188,498	71,151	191,638	72,730	76,550	39.9

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, June 2025」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2025年10月号の掲載となります。直近の内容は2025年7月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」： https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003367.html

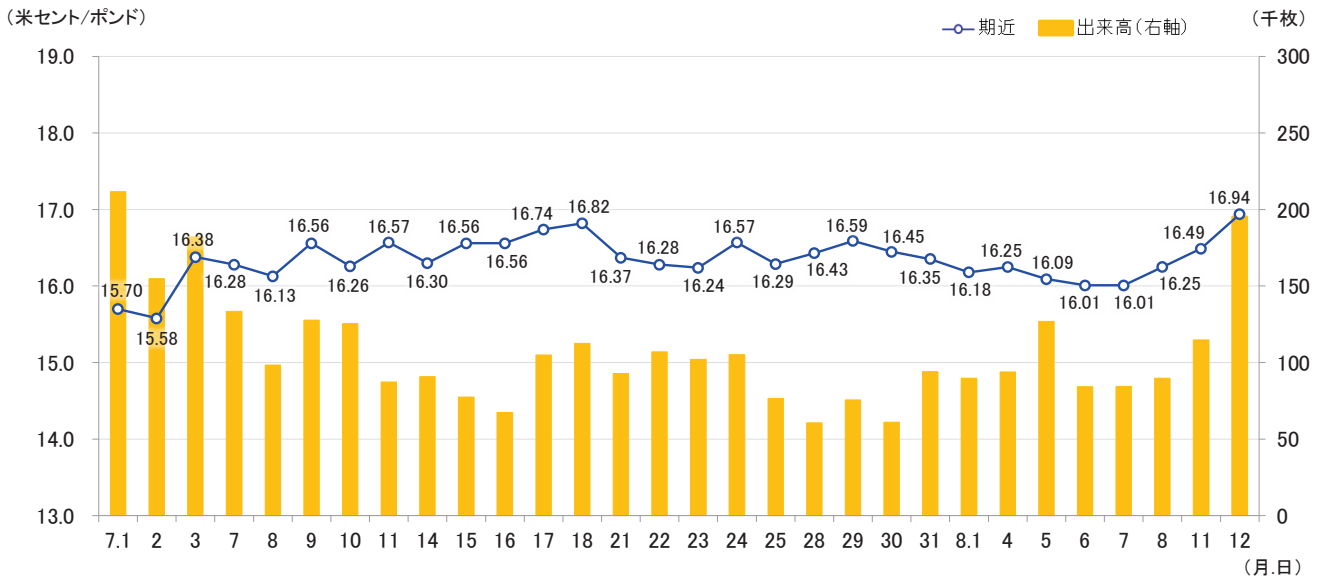
「主要国の砂糖需給」： https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003368.html

2 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (7/1 ~ 8/12)

～余剰見通しと減産懸念で上下し、16セント台で推移～

図 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：期近10月限の値。

2025年7月のニューヨーク粗糖先物相場（10月^{がつ}限）の推移を見ると、2日は世界の砂糖の余剰見通しから1ポンド当たり15.58セント（注1）と下落したが、3日はブラジルの主要生産地域の降霜発生により、同16.38セントと上昇した。7日以降はインドでのモンスーンの早期到来などが砂糖増産見通しの材料となったことから下落に転じ、8日は16.13セントをつけた。9日はパキスタンやフィリピンの砂糖輸入の発表から砂糖の供給懸念が高まり上昇したものの、10日はドル高（注2）で下落し、同16.26セントをつけた。11日は原油高（注3）により上昇したものの、14日は一転し、同16.30セントと下落した。15日以降は、米国ロリンズ農務長官が特殊糖の追加輸入を制限すると発表したことや同国トランプ大統領が同国内で販売されるコカ・コーラに甘しや糖を使用することに合意したことなどから上昇し、18日は同16.82セントをつけた。21日以降は

ブラジルの増産見込みや25/26年度にインドの砂糖輸出が許可される可能性が報じられたことから、23日は同16.24セントまで下落した。24日以降は供給量の増加や原油高などにより上下し、31日は同16.35セントをつけた。

8月に入ると、ブラジルの増産見通しにより下落が続き、7日は同16.01セントまで値を下げたが、8日以降は一転し、レアル高やブラジルの減産懸念が報じられたことから、12日は同16.94セントまで上昇した。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

（注2）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

（注3）一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料

であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される

食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

3 世界の砂糖需給に影響する各国の動向（2025年8月時点予測）

ブラジル

2025/26年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：872万ha（前年度比1.4%減）
生産量：6億4300万トン（同5.3%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4633万トン（同1.8%減）
輸出量：3553万トン（同2.0%減）

2025/26年度のサトウキビ生産量はやや、砂糖生産量はわずかな減少を見込む

2025/26年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、1月～3月の降水量が平均を下回ったことと圃場の^{ほじょう}更新により、872万ヘクタール（前年度比1.4%減）とわずかな減少が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、前年度の火災の影響のほか、年初からの干ばつ傾向に加え、6月と7月に中南部で局所的に発生した霜害などにより、単収が前年度を下回るとの見通しから、6億4300万トン（同5.3%減）とやや減少が見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビの減産およびサトウキビの歩留まり指標となるATR^{（注）}の減少が見込まれ

る中、引き続き製糖企業によるサトウキビの砂糖仕向けの割合は高い状態にあるものの、4633万トン（同1.8%減）とわずかな減少が見込まれている。世界の砂糖相場が下落傾向にある中、同国では8月1日よりガソリンへのエタノール30%の混合（E30）が義務付けられており、今後のエタノール生産の動向が注目される。砂糖輸出量は、3553万トン（同2.0%減）とわずかな減少が見込まれているが、引き続き国際市場でのブラジル産砂糖に対する堅調な需要が見込まれている。

（注）1トン当たりの平均回収糖分。ポルトガル語でAçúcar Total Recuperável（総回収可能糖量）の略。

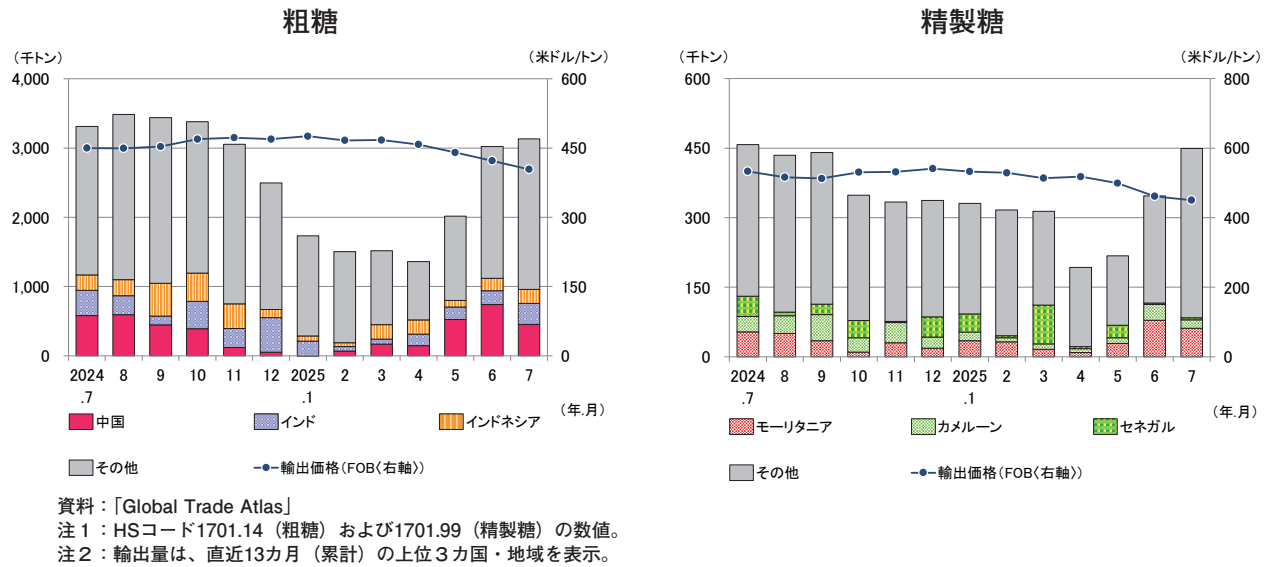
表 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 （7月予測）	2025/26 （8月予測）	前年度比 （増減率）
サトウキビ収穫面積		8,421	8,408	8,844	8,710	8,718	▲ 1.4
サトウキビ生産量		606,676	713,134	678,676	643,000	643,000	▲ 5.3
砂糖	生産量	39,700	49,320	47,190	46,600	46,330	▲ 1.8
	輸入量	2	5	4	5	5	8.3
	消費量	10,924	10,965	10,800	10,864	10,864	0.6
	輸出量	28,888	37,393	36,245	35,316	35,526	▲ 2.0
	期末在庫量	2,455	3,422	3,571	2,987	3,516	▲ 1.6
期末在庫率		6.2	7.1	7.6	6.5	7.6	0.0ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2025」
注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



インド

2024/25年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：524万ha（前年度比5.4%減）

生産量：3億8985万トン（同12.1%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2813万トン（同18.9%減）

輸出量：358万トン（同18.3%減）

2024/25年度の砂糖生産量および輸出量は大幅に減少する見込み

2024/25年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、主産地での競合作物への転作などから524万ヘクタール（前年度比5.4%減）とやや減少が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、干ばつと一部地域で発生した赤腐病（red rot）^{（注）}の影響により、3億8985万トン（同12.1%減）とかなり大きく減少が見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビの減産とエタノールへの転用により、2813万トン（同18.9%減）と大幅に減少し、17/18年度以降最低となることが見込まれている。現地報道によると、インドではこれまで

ガソリンへのエタノール20%の混合（E20）を30年までに達成する目標が掲げられてきたが、目標より5年早くE20を達成したことが報じられた。砂糖輸出量は、砂糖の減産や輸出制限の継続により、358万トン（同18.3%減）と2年連続で大幅な減少が見込まれている。同国政府は25年1月、国内余剰在庫の解消などを目的に100万トンの砂糖輸出を許可したが、現地報道によると、7月中旬までに100万トンの輸出割当量のうち、約70万トンがアフリカやアジア地域に輸出された。

（注）真菌の感染によって引き起こされ、茎の内部の腐敗や褐変により、サトウキビの単収や砂糖の回収率に深刻な影響を及ぼすとされる。

表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

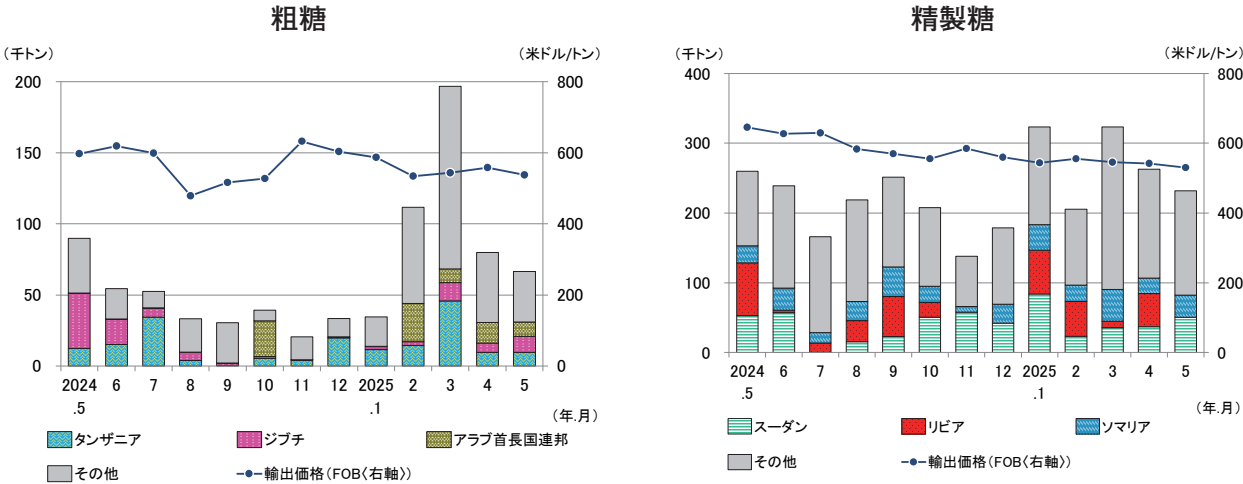
年度	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (7月予測)	2024/25 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	5,222	5,441	5,544	4,976	5,243	▲ 5.4
サトウキビ生産量	481,599	455,898	443,707	390,276	389,847	▲ 12.1
砂糖	生産量	38,559	35,389	28,056	28,132	▲ 18.9
	輸入量	427	1,687	2,609	2,608	▲ 16.7
	消費量	29,516	30,078	29,970	29,970	▲ 2.9
	輸出量	12,468	8,646	3,578	3,577	▲ 18.3
	期末在庫量	7,934	6,286	5,955	6,031	▲ 31.8
	期末在庫率	18.9	16.2	25.1	17.7	18.0
						7.1ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2025」

注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

中国

2024/25年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：118万ha（前年度比7.8%増）

生産量：7354万トン（同0.6%増）

【てん菜】

収穫面積：22万ha（同29.3%増）

生産量：1346万トン（同43.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1207万トン（同12.0%増）

輸入量：604万トン（同19.2%減）

2024/25年度の砂糖輸入量は大幅な減少見込み

2024/25年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、118万ヘクタール（前年度比7.8%増）とかなりの程度増加が見込まれている（表）。サト

ウキビ生産量は、主産地である広西チワン族自治区の高温干ばつ傾向により、7354万トン（同0.6%増）とわずかな増加が見込まれている。

てん菜の収穫面積は、生産者が需要や価格の優位性により、大豆やトウモロコシなどの競合作物から

転換したことで、22万ヘクタール（同29.3%増）と大幅な増加が見込まれている。てん菜生産量は、収穫面積の増加と良好な生育状況により、1346万トン（同43.5%増）と大幅な増加が見込まれている。

砂糖生産量は、てん菜の増産を背景に1207万トン（同12.0%増）とかなり大きな増加が見込まれ

ている。砂糖輸入量は、引き続き国内の需給ギャップを埋めるために一定の輸入が予想されているものの、国内の生産見通しが改善していることから、604万トン（同19.2%減）と大幅な減少が見込まれている。

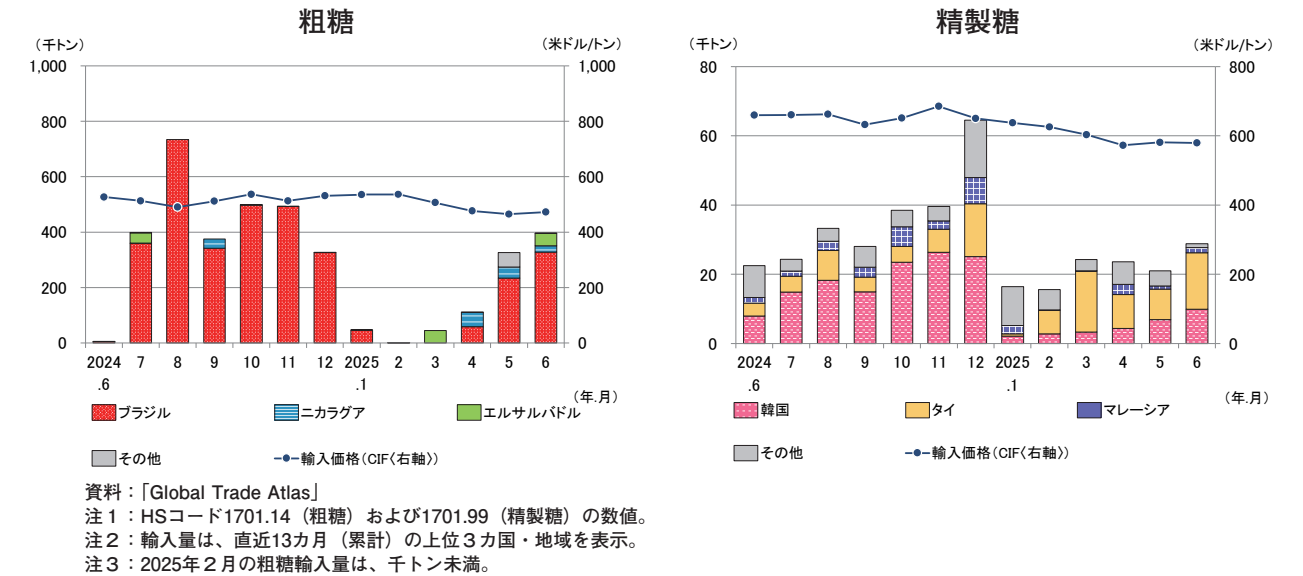
表 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (7月予測)	2024/25 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,119	1,102	1,095	1,180	1,180	7.8
サトウキビ生産量	72,136	62,595	73,132	73,537	73,537	0.6
てん菜収穫面積	144	182	167	216	216	29.3
てん菜生産量	7,070	8,719	9,377	13,485	13,460	43.5
砂糖	生産量	10,337	9,699	10,773	12,067	12.0
	輸入量	6,971	5,886	7,479	5,256	▲ 19.2
	消費量	16,632	16,578	16,740	17,064	1.9
	輸出量	172	201	179	166	▲ 6.7
	期末在庫量	15,365	14,171	15,505	15,599	5.7
	期末在庫率	91.4	84.5	91.6	90.5	95.1
						3.5ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2025」
注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



E U

2024/25年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：157万ha（前年度比8.4%増）
生産量：1億1646万トン（同6.0%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1731万トン（同6.1%増）
輸入量：126万トン（同42.0%減）

2024/25年度の砂糖生産量はかなりの程度増加、輸入量は大幅な減少見込み

2024/25年度（10月～翌9月）のてん菜収穫面積は、播種期間中にEUの砂糖価格が記録的な高水準となったことにより、生産量上位国であるドイツ、フランス、ポーランドを中心に各国で増加が見込まれることから、157万ヘクタール（前年度比8.4%増）とかなりの程度増加が見込まれている（表）。てん菜生産量は、作付面積の増加と収穫後期の好天

により、1億1646万トン（同6.0%増）とかなりの程度増加が見込まれている。

砂糖生産量は、てん菜の増産を背景に1731万トン（同6.1%増）とかなりの程度増加が見込まれている。砂糖輸入量は、域内での増産とウクライナからの砂糖輸入に制限が設けられる見込みであることなどから、126万トン（同42.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

表 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (7月予測)	2024/25 (8月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積		1,454	1,398	1,447	1,569	1,569	8.4
てん菜生産量		111,391	99,752	109,888	116,468	116,458	6.0
砂糖	生産量	17,330	15,480	16,313	17,316	17,310	6.1
	輸入量	2,146	3,269	2,180	1,247	1,264	▲ 42.0
	消費量	17,976	17,227	16,237	16,773	16,672	2.7
	輸出量	1,264	925	2,206	2,189	2,194	▲ 0.6
	期末在庫量	1,616	2,213	2,264	1,850	1,972	▲ 12.9
	期末在庫率	8.4	12.2	12.3	9.8	10.5	1.8ポイント減

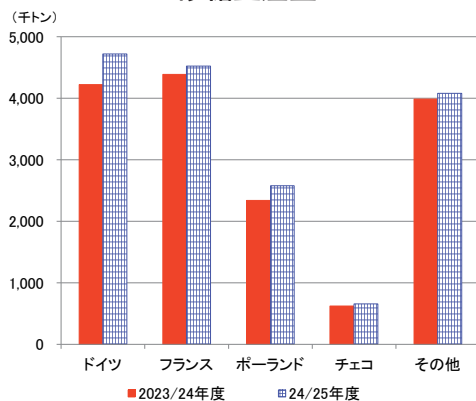
資料：GlobalData UK Ltd.「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2025」

注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し（2024/25年度）（2025年6月時点）

砂糖生産量

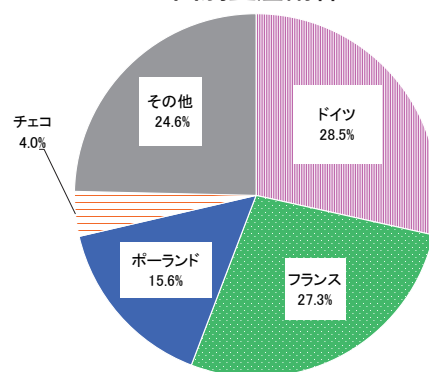


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算

注2：2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度は予測値。

国別生産割合



資料：欧州委員会

4 日本の主要輸入先の動向（2025年8月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゅ糖・分みつ糖＜HSコード1701.14－110＞および甘しゅ糖・その他＜同1701.14－200＞の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイである。2024年の主要輸入先の割合を見ると、豪州が90.2%（前年比1.4ポイント減）、タイが9.7%（同1.3ポイント増）と、両国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪 州

2025/26年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比0.0%増）

生産量：2979万トン（同7.2%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：402万トン（同6.3%増）

輸出量：302万トン（同10.3%増）

2025/26年度の砂糖生産量と輸出量はかなりの程度増加する見込み

2025/26年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比0.0%増）と前年度並みが見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、一定の労働力が確保されたことに加え、前年度と比較してより生育に適した季節的条件が整うとの見通しから、2979万トン（同7.2%増）とかなりの程度増加が見込まれている。一部の地域では過湿による収穫の遅延があったものの、7月の降水量が平年を大幅に下回ったことで収穫進度が加速し、現在は収穫の約25%が完了しているとされる。また、年初に洪水被害が甚大であった主産地の一つ

であるハーバート地域では、洪水の影響を受けたサトウキビなど一部で軽微な品質の問題は見られたものの、サトウキビの生育は全体的に良好であるとされる。

砂糖生産量は、CCS^{（注）}が前年度と比較して低水準であるものの、サトウキビの増産などにより402万トン（同6.3%増）とかなりの程度増加が見込まれている。砂糖輸出量は、アジア地域向けを中心に引き続き多くの需要があることから、302万トン（同10.3%増）とかなりの程度増加が見込まれている。

（注）可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

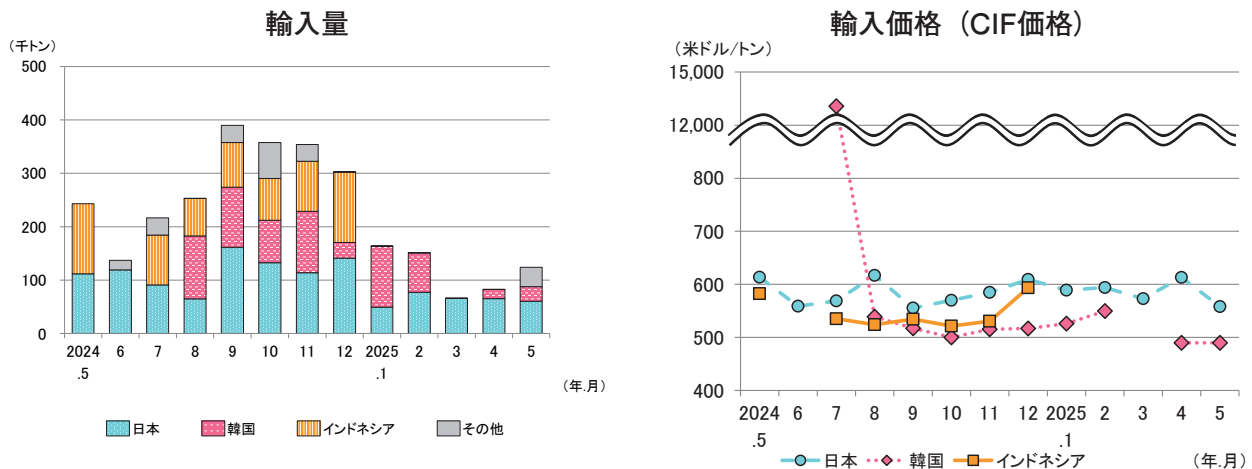
年度		2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 （7月予測）	2025/26 （8月予測）	前年度比 （増減率）
サトウキビ収穫面積		331	341	345	345	345	0.0
サトウキビ生産量		32,593	29,274	27,780	29,788	29,788	7.2
砂糖	生産量	4,298	4,128	3,779	4,017	4,017	6.3
	輸入量	8	10	14	12	12	▲ 17.1
	消費量	996	995	1,005	1,014	1,014	0.9
	輸出量	2,942	3,356	2,733	3,015	3,015	10.3
	期末在庫量	1,180	966	1,022	1,021	1,021	▲ 0.0
	期末在庫率	30.0	22.2	27.3	25.4	25.4	2.0ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2025」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 主要国の豪州産砂糖（粗糖）の輸入量および輸入価格の推移



資料：輸入量はGlobalData UK Ltd.「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2025」、輸入価格は「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）の数値。

注2：直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域とその他の輸入量を表示。

その他は上位3カ国・地域を除いた国・地域の合計。

ただし、GlobalData UK Ltd.の資料に掲載されている国・地域となる。

注3：豪州の輸出に関する月別の統計情報は公表されていないため、主要輸入国の月別の輸入に関する統計情報に基づき作成。

注4：韓国の2024年5月、6月、25年3月の輸入量は実績なし。24年7月の輸入量は、千トン未満。

注5：インドネシアの2024年6月、25年1月、2月、3月、4月、5月の輸入量は実績なし。

タイ

2024/25年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：154万ha（前年度比4.4%増）

生産量：9204万トン（同12.0%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1059万トン（同13.6%増）

輸出量：731万トン（同24.2%増）

2024/25年度の砂糖生産量はかなり大きく、輸出量は大幅に増加する見込み

2024/25年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、154万ヘクタール（前年度比4.4%増）とやや増加が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、収穫面積の増加と良好な気象条件により9204万トン（同12.0%増）とかなり大きな増加が見込まれている。現地報道によると、24/25年度のサトウキビの圧搾は4月8日に終了したとされている。また、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）が焼き畑^{（注）}で収穫されたサトウキビを減らすための取り組みを推進したことで、焼き畑のサトウキビ

収穫割合は全体の15%以下に抑えられたとされている。

砂糖生産量は、サトウキビの増産とCCSの増加により、1059万トン（同13.6%増）とかなり大きな増加が見込まれている。砂糖輸出量は、インド産やブラジル産の輸出量減少が見込まれる中、砂糖の増産を背景に731万トン（同24.2%増）と大幅な増加が見込まれている。

（注）サトウキビの梢頭部や葉を燃やした後に収穫する方法。

表 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

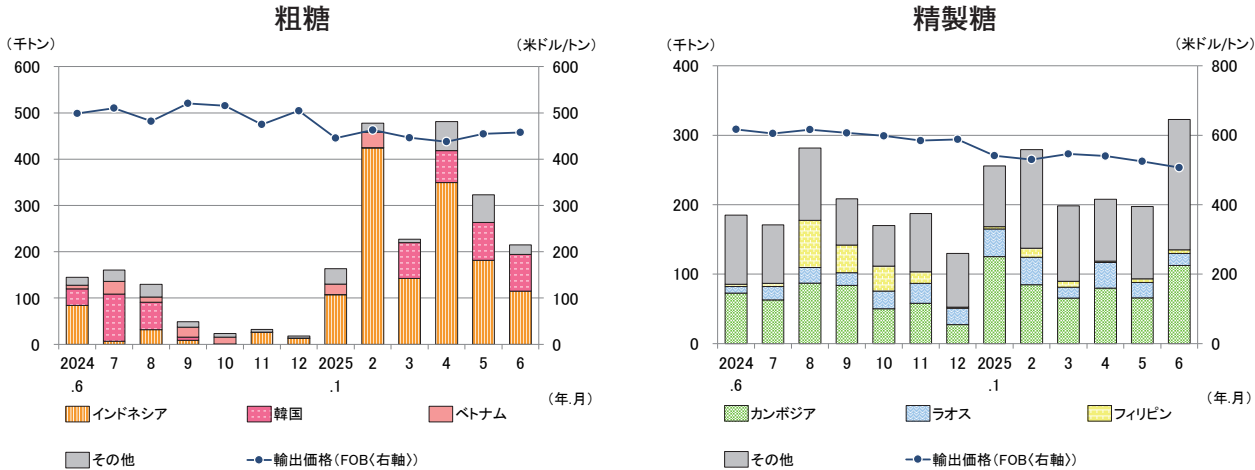
年度	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (7月予測)	2024/25 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,525	1,514	1,475	1,541	1,541	4.4
サトウキビ生産量	91,145	93,888	82,167	92,043	92,043	12.0
砂糖	生産量	10,643	11,688	10,585	10,585	13.6
	輸入量	148	318	249	380	52.9
	消費量	3,424	3,348	3,186	3,219	1.0
	輸出量	7,867	8,002	5,888	7,320	24.2
	期末在庫量	1,951	2,606	3,095	3,521	14.0
	期末在庫率	17.3	23.0	34.1	33.4	0.6ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2025」

注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。